

全国医学部長病院長会議(AJMC)
第4回定例記者会見について

日時 平成24年9月20日(木) 17:30-19:00
場所 全国医学部長病院長会議事務局会議室 8F

テーマ

- ・ 第106回医師国家試験に関する要望書について
- ・ 民主党文部科学部門会議 平成25年度予算編成等に関する要望について
- ・ その他

配付資料

- 資料1 医師国家試験に関する要望書
- 資料2 第106回医師国家試験 アンケート調査結果(要約) (受験生、教員)
第106回医師国家試験 試験問題の評価に関するアンケート調査結果(要約)
- 資料3 平成25年度予算編成等に関する要望
- 資料4 座席表

医師国家試験に関する要望書

第106回医師国家試験を受験した受験生および全国の大学医学部、医科大学の教官を対象にして平成23年度に実施した医師国家試験に関するアンケート調査の結果に基づき、全国医学部長病院長会議として以下を要望いたします。

- 1) 試験に関する情報公開、質の高い良質な問題の出題、受験環境の整備に引き続きご努力いただきたい。
- 2) 難易度の高い問題および必修問題において正解率の低い問題については採点から除外するなど、受験生の不利にならない適切な処置を引き続き講じていただきたい。
- 3) 全国医学部長病院長会議が公表した「医師養成の検証と改革実現のためのグランドデザインー地域医療崩壊と医療のグローバル化の中でー」を参考に、医師国家試験の改革について、関係機関における検討を直ちに開始していただきたい。

以上の要望につき、文書での回答を希望いたします。

第106回医師国家試験

受験生 アンケート調査結果 〔要約〕

全国医学部長病院長会議

1

第106回医師国家試験アンケート調査結果 受験生

受験生の回答状況

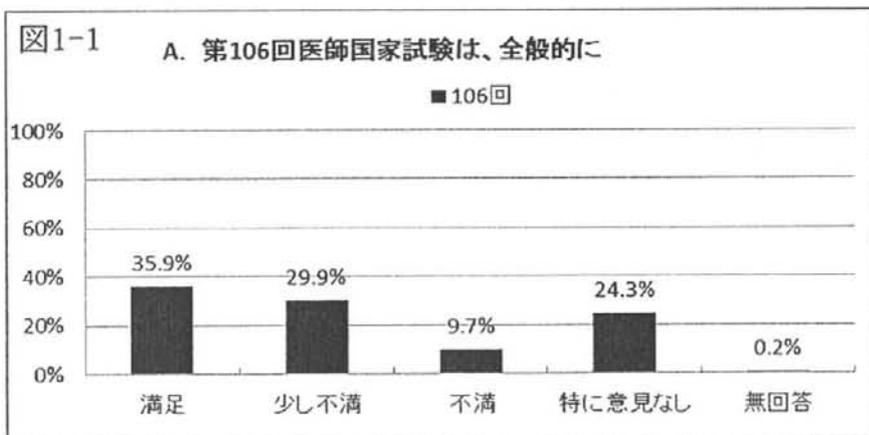
| 大学名 | 配布部数 | 回収部数 | 回収率 | 試験会場 |
|------------|------|------|------|------------------------|
| 国 秋田大学 | 95 | 52 | 54.7 | 宮城県(産業見本市会館サンフェスタ) |
| 国 東京医科歯科大学 | 86 | 43 | 50.0 | 東京都(大正大学、明治学院大学) |
| 国 岡山大学 | 107 | 10 | 9.3 | 香川県(高松市市民文化センター) |
| 国 徳島大学 | 88 | 77 | 87.5 | 香川県(高松市市民文化センター) |
| 国 宮崎大学 | 14 | 14 | 100 | 福岡県(第一薬科大学) |
| 公 福島県立医科大学 | 74 | 64 | 86.5 | 宮城県(産業見本市会館サンフェスタ卸町会館) |
| 私 埼玉医科大学 | 90 | 85 | 94.4 | 東京都(大正大学、明治学院大学) |
| 私 東京医科大学 | 89 | 35 | 39.3 | 東京都(大正大学、明治学院大学) |
| 私 金沢医科大学 | 115 | 102 | 88.7 | 石川県(金沢流通会館) |
| 私 大阪医科大学 | 98 | 86 | 87.8 | 大阪府(大阪産業大学中央キャンパス) |
| 合計 | 856 | 568 | 66.4 | |

全国医学部長病院長会議

2

第106回医師国家試験アンケート調査結果 受験生

A 第106回医師国家試験は、一般的に言って、どのように感じましたか。

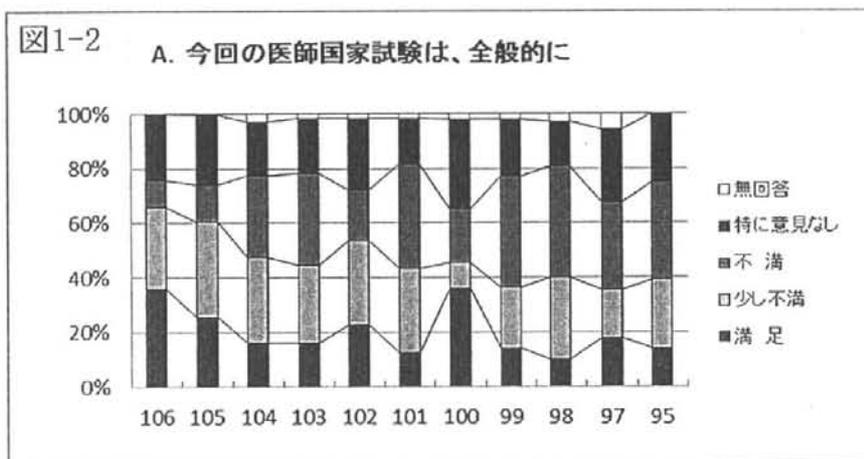


全国医学部長病院長会議

3

第106回医師国家試験アンケート調査結果 受験生

A 第106回医師国家試験は、一般的に言って、どのように感じましたか。

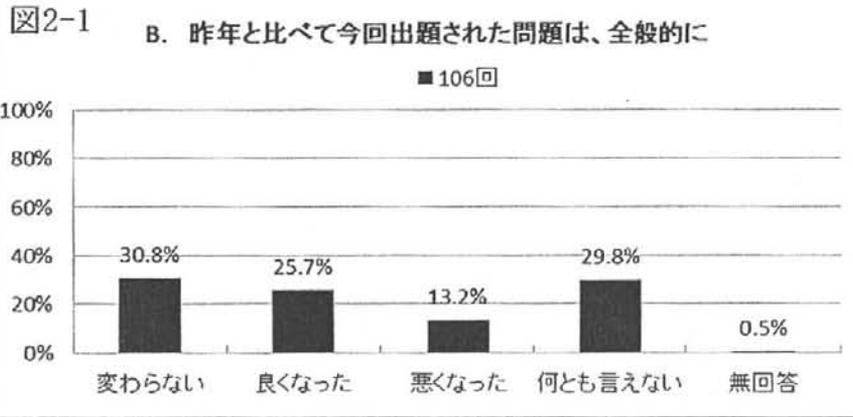


全国医学部長病院長会議

4

第106回医師国家試験アンケート調査結果 受験生

B 昨年の国家試験の問題と比べて今回出題された問題の質は、全般的に

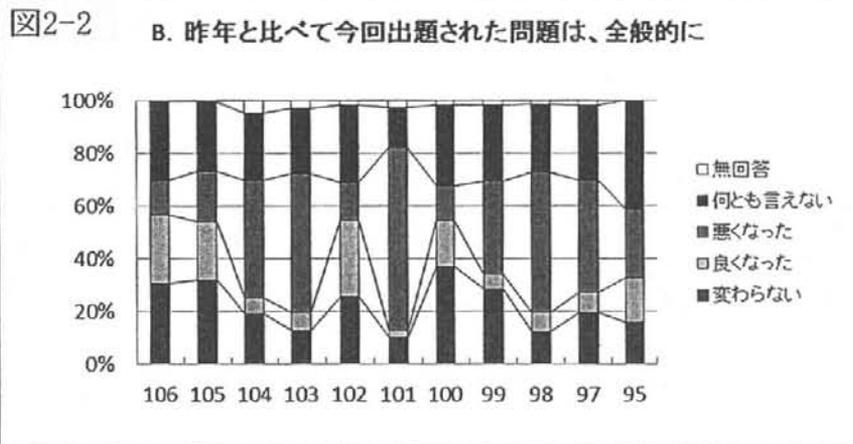


全国医学部長病院長会議

5

第106回医師国家試験アンケート調査結果 受験生

B 昨年の国家試験の問題と比べて今回出題された問題の質は、全般的に



全国医学部長病院長会議

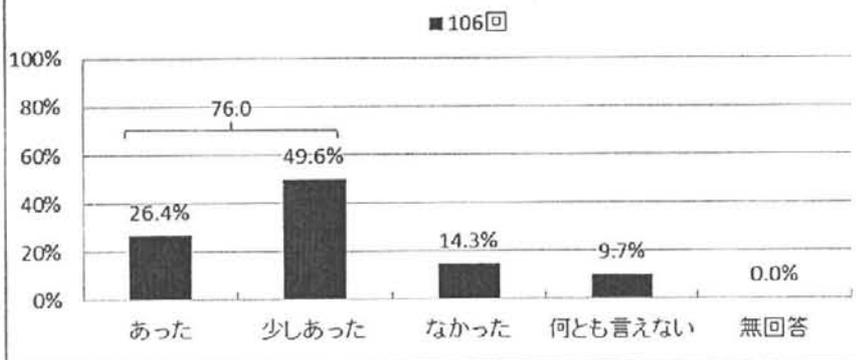
6

第106回医師国家試験アンケート調査結果 受験生

C 大学での学習と医師国家試験との関係について

1. 大学での学習内容と医師国家試験問題との間に整合性はありましたか。

図3-1 C-1. 大学での学習内容と国試との整合性について



全国医学部長病院長会議

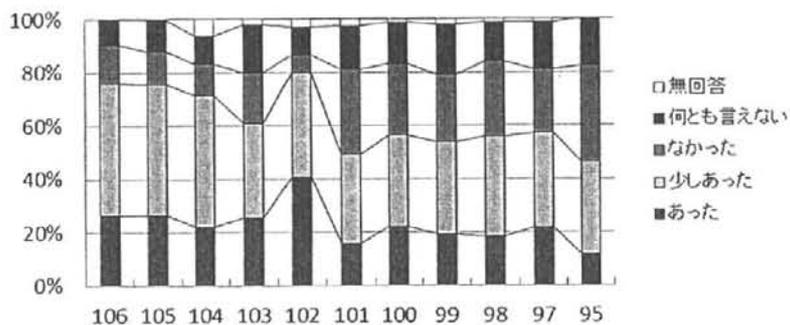
7

第106回医師国家試験アンケート調査結果 受験生

C 大学での学習と医師国家試験との関係について

1. 大学での学習内容と医師国家試験問題との間に整合性はありましたか。

図3-2 C-1. 大学での学習内容と国試との整合性について



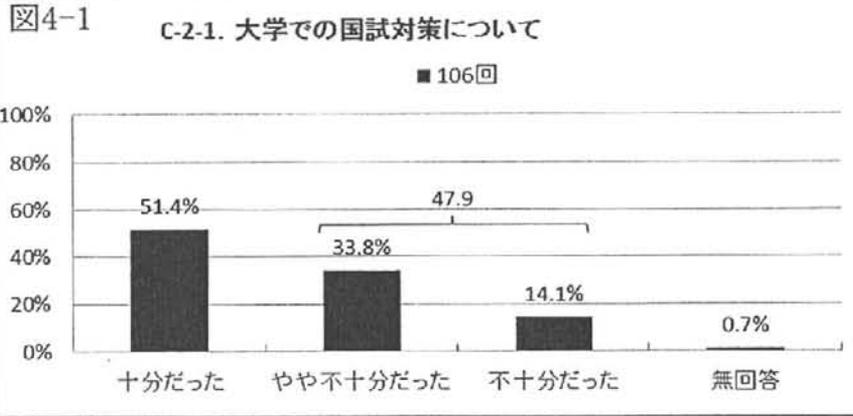
全国医学部長病院長会議

8

第106回医師国家試験アンケート調査結果 受験生

C 大学での学習と医師国家試験との関係について

2-1. 大学では国試対策(国試対策講義、模擬国試、等)が十分行われていましたか。



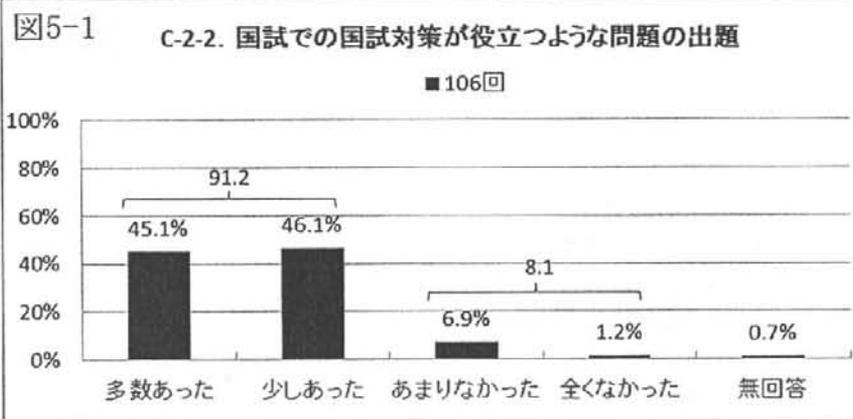
全国医学部長病院長会議

9

第106回医師国家試験アンケート調査結果 受験生

C 大学での学習と医師国家試験との関係について

2-2. 国試では国試対策が役立つような問題が出題されてきましたか。



全国医学部長病院長会議

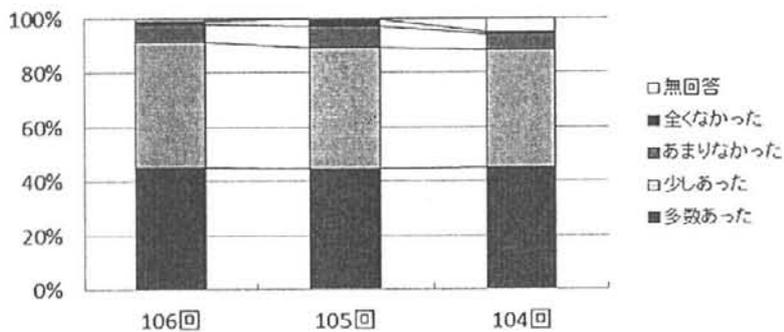
10

第106回医師国家試験アンケート調査結果 受験生

C 大学での学習と医師国家試験との間の関係について

C-2. 国試では国試対策が役立つような問題が出題されていましたか。

図5-2 C-2.2. 国試での国試対策が役立つような問題の出題



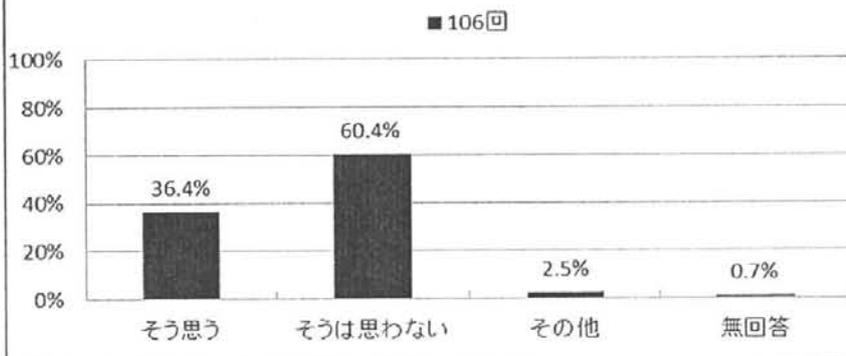
全国医学部長病院長会議

11

第106回医師国家試験アンケート調査結果 受験生

D 国試が医学生にとって過重であり、不安をあおっているという指摘がありますが、どう思いますか。

図6-1 D. 国試が医学生にとって過重であり、不安をあおっているか



*「その他」の回答: ① どちらとも思えない、② わからない、③ わしろ卒試が過重、④ 大学が過重、⑤ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

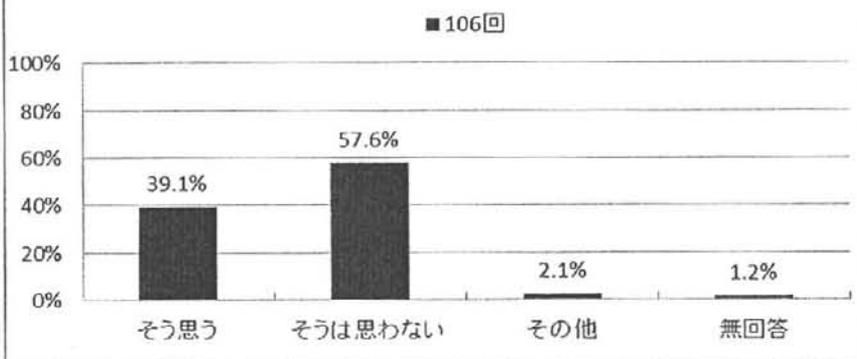
全国医学部長病院長会議

12

第106回医師国家試験アンケート調査結果 受験生

E 国試が医学生にとって過重であり、不安をあおっているという指摘がありますが、どう思いますか。

図7-1 E. 国試のため、臨床実習が形骸化しているか



※「その他」の回答は12

① 本人次第、(3)

② やや改善

③ 6年は実習いらないと思う

④ 国試の有無に関らず形骸化している

⑤ 臨床に出て働くのが目的なので、実習をおろそかにする態度が問題だと思う

⑥ 一理あると思うが、主に実習施設や学生の意識の問題だと思う

⑦ ある程度そう思う

⑧ そもそも大学は国試予備校。実習などなくてよいと思う

⑨ わからない、(2)

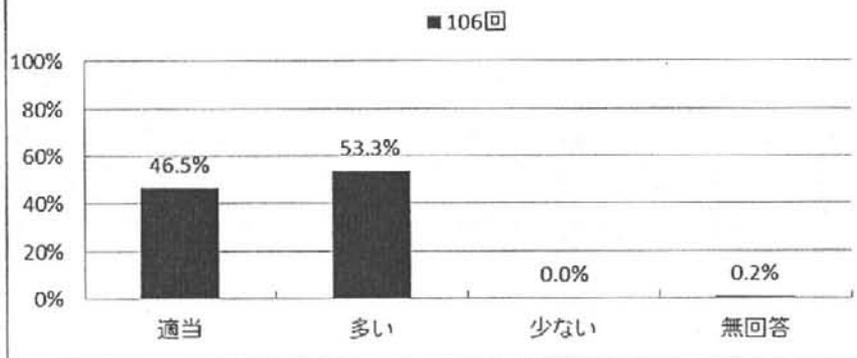
全国医学部長病院長会議

13

第106回医師国家試験アンケート調査結果 受験生

F 現行の国試は3日間、計500問です。試験としてのボリュームはどう思いますか。

図8-1 F. 現行国試(3日間、計500問)の試験のボリュームについて



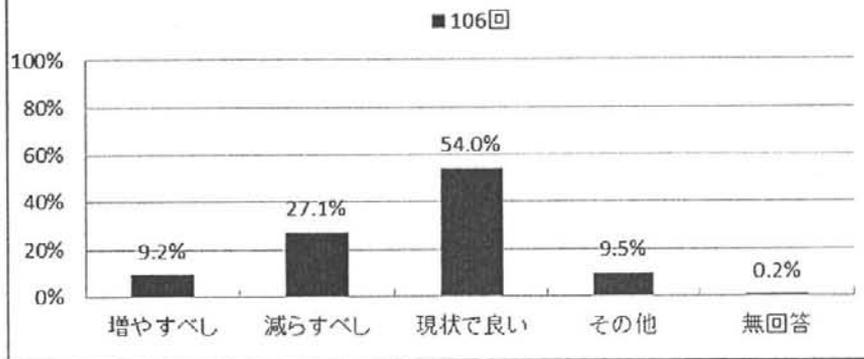
全国医学部長病院長会議

14

第106回医師国家試験アンケート調査結果 受験生

G 必修問題(80%以上の正答率が必要、約100問)についてどう思いますか。

図9-1 G. 必修問題(正答率80%以上、約100問)について



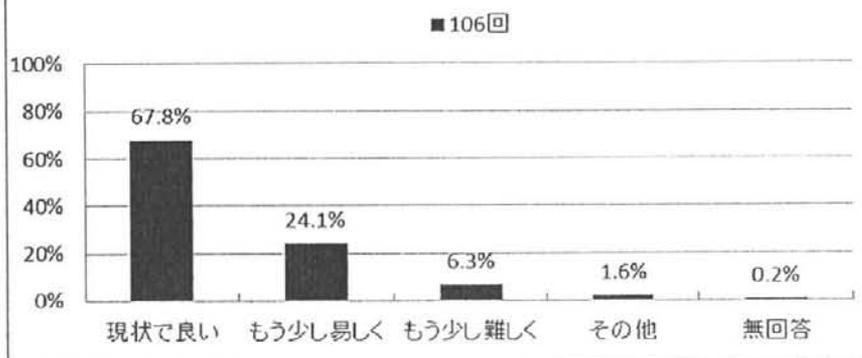
全国医学部長病院長会議

15

第106回医師国家試験アンケート調査結果 受験生

H 問題の難易度についてどう思いますか。

図10-1 H. 問題の難易度について



※「その他」の回答: 9

- ① 難易度が高すぎるもの、低すぎるものが両方ある。(2)
- ② 必修重い。
- ③ 必修は難しい。
- ④ 必修が一般より難しく感じた。
- ⑤ 問題の意味を明確にして欲しい。
- ⑥ 傾向が変わった。
- ⑦ 必修が80%必要な割に難しく、一般・臨床は65%程度でいいのに必修より簡単だった。
- ⑧ 良い。

全国医学部長病院長会議

16

第106回医師国家試験

教員

アンケート調査結果

〔要約〕

全国医学部長病院長会議

17

第106回医師国家試験アンケート調査結果 教員

教員の回答状況

| | 106回 | |
|-----------|------|------|
| | 人数 | 回答率 |
| 医学部長 等 | 7 | 9% |
| 教育委員長 等 | 23 | 29% |
| 教育委員会教員 等 | 21 | 26% |
| 国試委員長 等 | 5 | 6% |
| 事務職員 等 | 18 | 23% |
| その他 | 0 | 0% |
| 無記入 | 6 | 8% |
| 合計 | 80 | 100% |

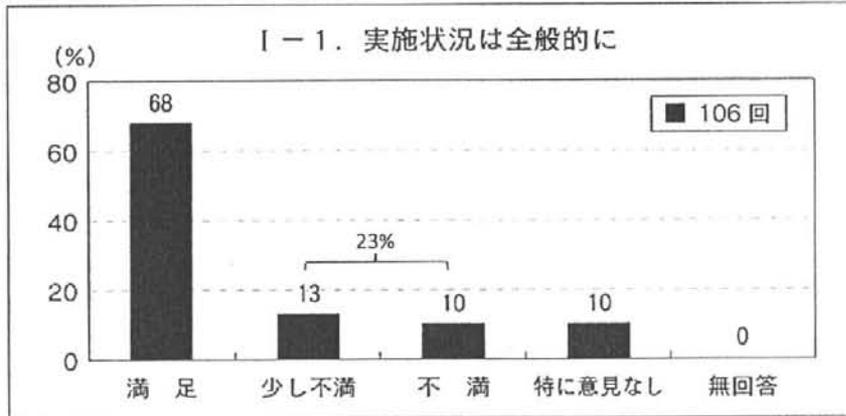
全国医学部長病院長会議

18

第106回医師国家試験アンケート調査結果 教員

I 第106回医師国家試験について

1. 実施状況は、全般的に言って、



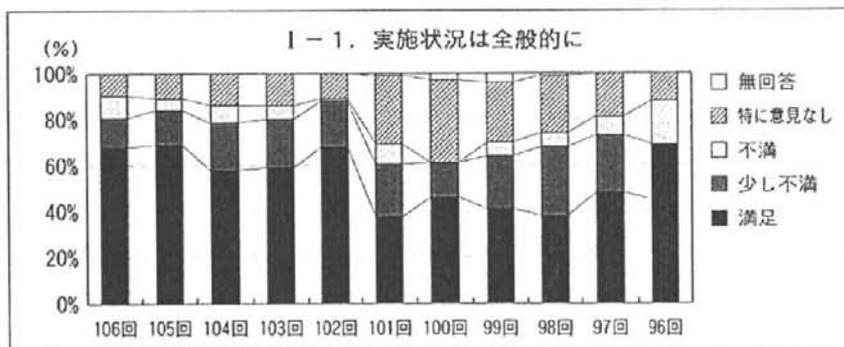
全国医学部長病院長会議

19

第106回医師国家試験アンケート調査結果 教員

I 第106回医師国家試験について

1. 実施状況は、全般的に言って、



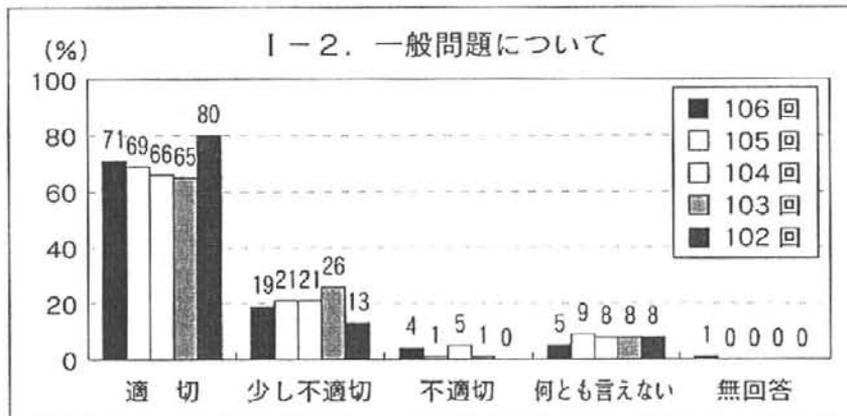
全国医学部長病院長会議

20

第106回医師国家試験アンケート調査結果 教員

I 第106回医師国家試験について

2. 一般問題について



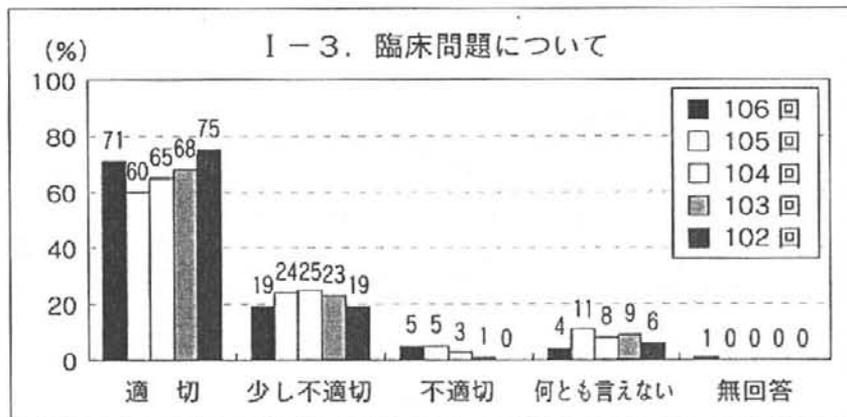
全国医学部長病院長会議

21

第106回医師国家試験アンケート調査結果 教員

I 第106回医師国家試験について

3. 臨床問題について



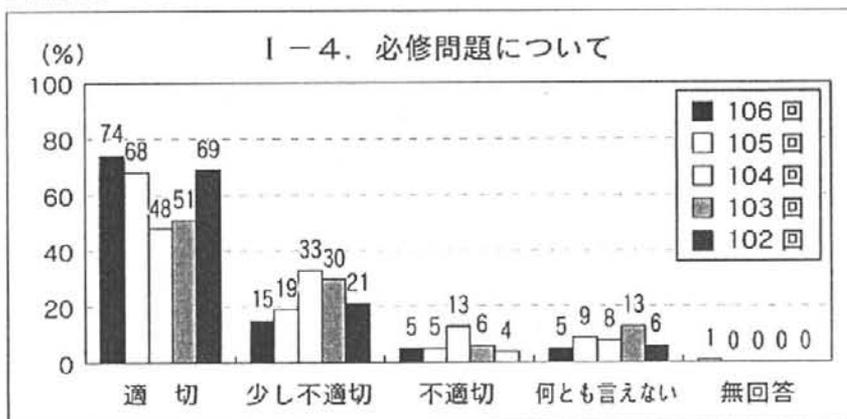
全国医学部長病院長会議

22

第106回医師国家試験アンケート調査結果 教員

I 第106回医師国家試験について

4. 必修問題について



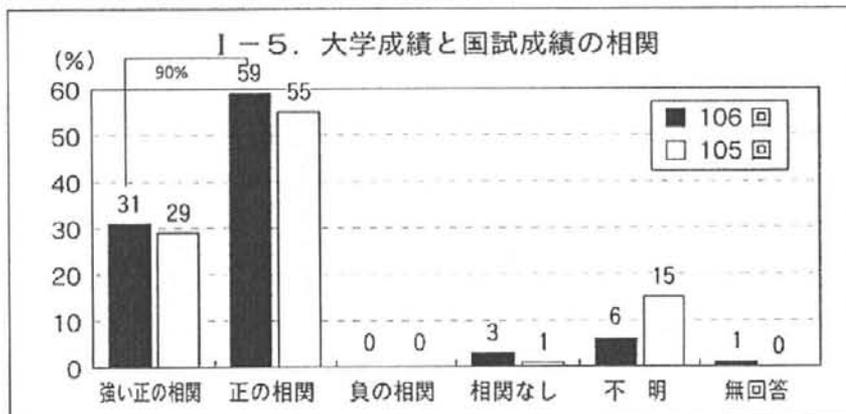
全国医学部長病院長会議

23

第106回医師国家試験アンケート調査結果 教員

I 第106回医師国家試験について

5. 貴大学受験生の大学での成績と国試の成績との相関は、



全国医学部長病院長会議

24

第106回医師国家試験アンケート調査結果 教員

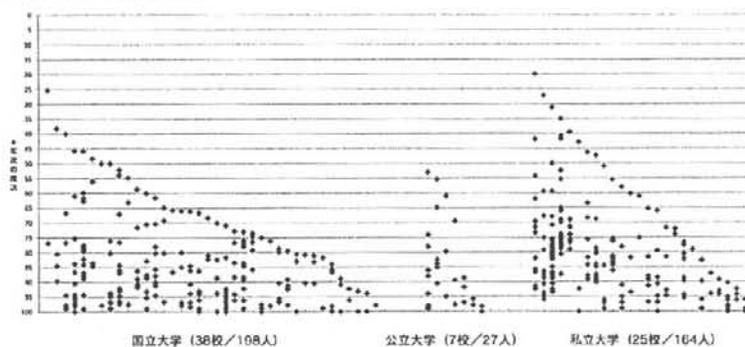
I 第106回医師国家試験について

6. 国試不合格者(新卒)の学内での成績(席次)について

国試不合格者(新卒) 全国合計461人

国試不合格者の学内での席次

6年次の席次 70大学/389人



全国医学部長病院長会議

第106回医師国家試験アンケート調査結果 教員

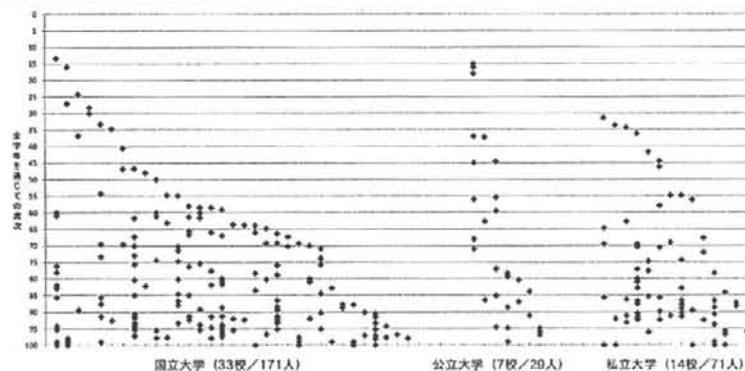
I 第106回医師国家試験について

6. 国試不合格者(新卒)の学内での成績(席次)について

国試不合格者(新卒) 全国合計461人

国試不合格者の学内での席次

全学年を通じての席次 54大学/271人

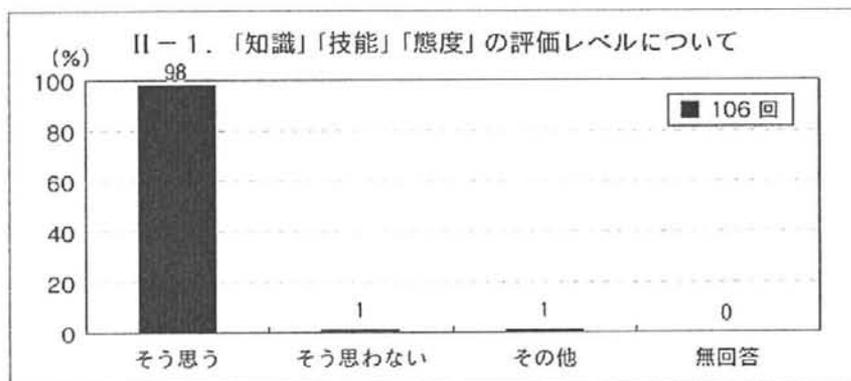


全国医学部長病院長会議

第106回医師国家試験アンケート調査結果 教員

II 医師国家試験のあり方について

1. 医師法第9条に立ち返り、「知識」と「技能」に対する評価としての資格試験とする。なお、評価される知識、技能、態度レベルは、医師として卒後研修を開始するのに必要な基本的な臨床能力であり、それ以上に高度である必要はない。



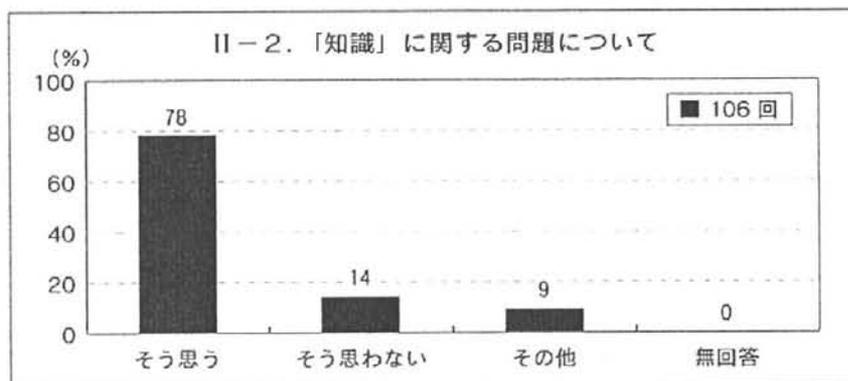
全国医学部長病院長会議

27

第106回医師国家試験アンケート調査結果 教員

II 医師国家試験のあり方について

2. 「知識」に関する問題は、医師として卒後臨床研修を開始するのに最低限必要な基本的知識を問う問題とし、共用試験合格後に行う臨床実習において習得すべき知識を中心に出题する。CBT方式を採用し、問題数は200～300問で、1～2日間で行う。



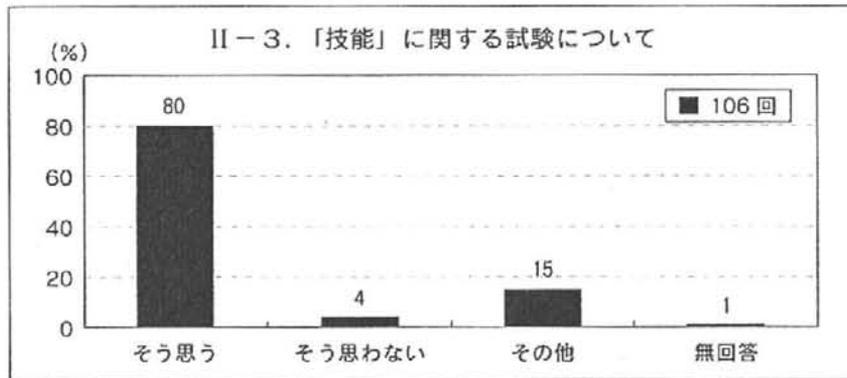
全国医学部長病院長会議

28

第106回医師国家試験アンケート調査結果 教員

Ⅱ 医師国家試験のあり方について

3. 「技能」に関する問題は、医師として卒後臨床研修を開始するのに最低限必要な基本的技能および態度を問う技能試験とし、OSCEで行う。



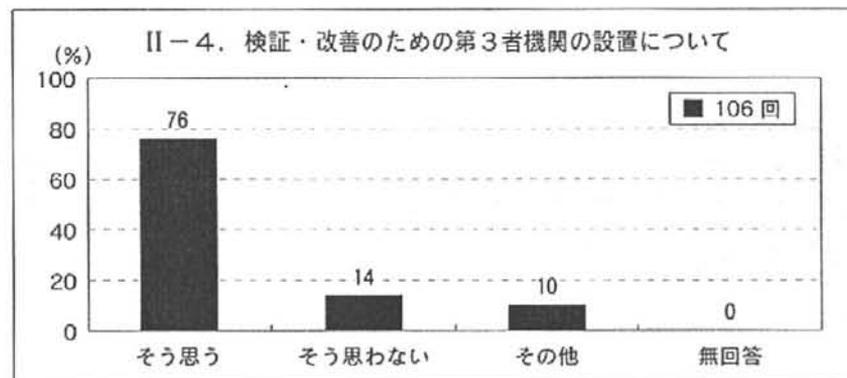
全国医学部長病院長会議

29

第106回医師国家試験アンケート調査結果 教員

Ⅱ 医師国家試験のあり方について

4. 上記2、3を実際に行い、医師国家試験の結果を検証し、継続的な改善を行うための第三者機関を設置すべきである。



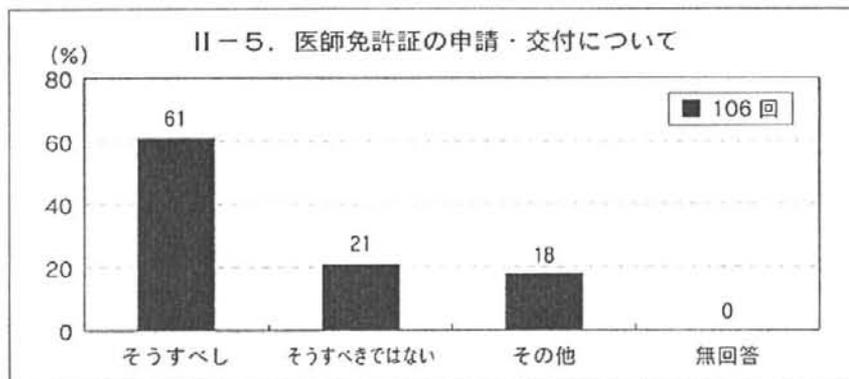
全国医学部長病院長会議

30

第106回医師国家試験アンケート調査結果 教員

II 医師国家試験のあり方について

5. 受験生は、受験後、第三者機関から発行される成績をもって医師免許証の申請を厚生労働省に行い、厚生労働省は、その申請に基づいて免許交付の可否を判断する。



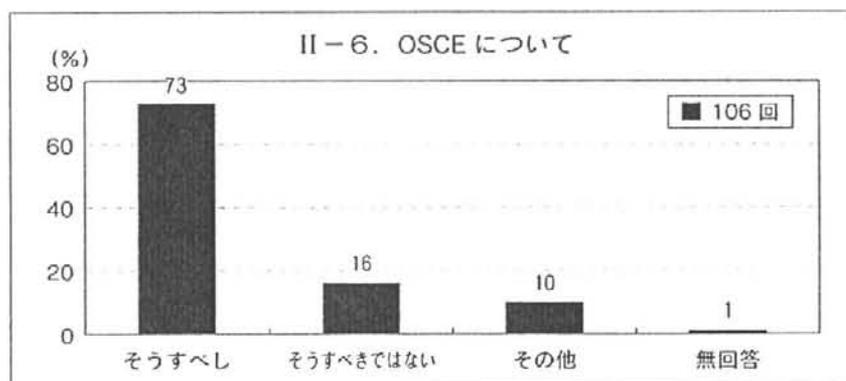
全国医学部長病院長会議

31

第106回医師国家試験アンケート調査結果 教員

II 医師国家試験のあり方について

6. 医師国家試験としてOSCEが、上記の第三者機関で実施できるようになるまでの期間は、各大学が卒業試験としてOSCEを行い、これに合格することを卒業要件の一つとする。



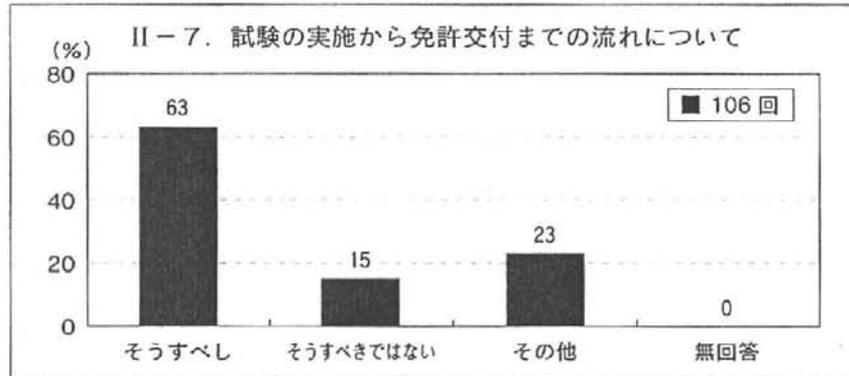
全国医学部長病院長会議

32

第106回医師国家試験アンケート調査結果 教員

II 医師国家試験のあり方について

7. 試験の実施から免許交付の時間的流れは、OSCEを6年次の11月～1月、CBTを2月、医師免許申請と交付を3月上旬～中旬とする。



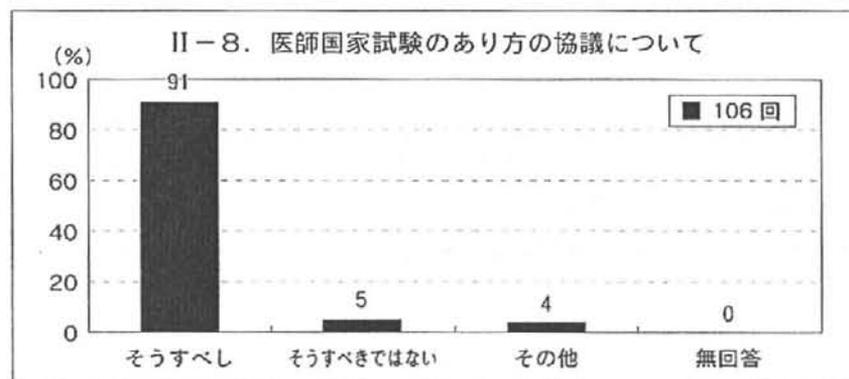
全国医学部長病院長会議

33

第106回医師国家試験アンケート調査結果 教員

II 医師国家試験のあり方について

8. 厚生労働省、文部科学省、全国医学部長病院長会議の3者で、医師国家試験のあり方について協議する。



全国医学部長病院長会議

34

第106回医師国家試験

試験問題の評価に関する アンケート調査結果 〔要約〕

全国医学部長病院長会議

35

第106回医師国家試験アンケート調査結果 試験問題の評価

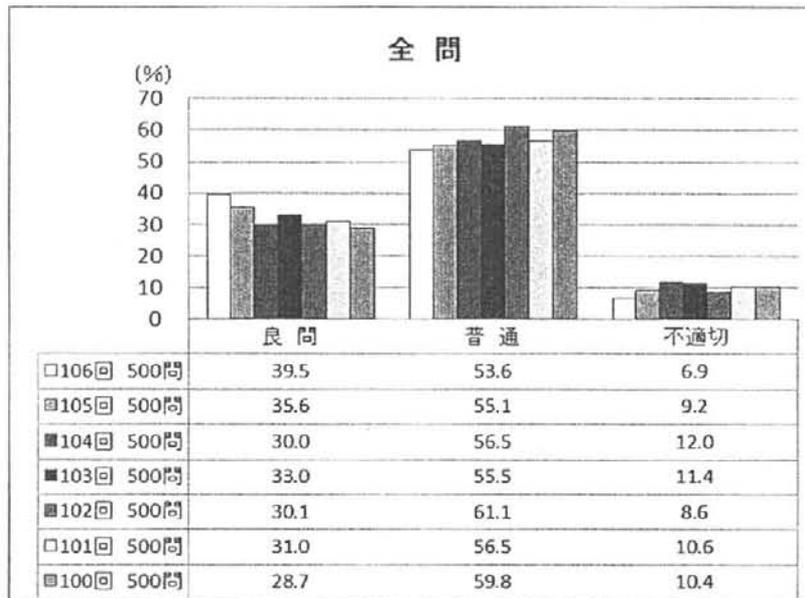
試験問題の評価に関するアンケート調査の回答状況

| 医師国家試験 | 回答数 | 回答した大学 |
|--------|-----|--|
| 第106回 | 10 | 東京医科歯科大学, 岡山大学, 徳島大学, 宮崎大学, 埼玉医科大学, 東京医科大学, 金沢医科大学, 大阪医科大学 |
| 第105回 | 8 | 東京医科歯科大学, 岡山大学, 徳島大学, 宮崎大学, 埼玉医科大学, 東京医科大学, 金沢医科大学, 大阪医科大学 |
| 第104回 | 8 | 山口大学, 徳島大学, 宮崎大学, 福島県立医科大学, 埼玉医科大学, 東京医科大学, 金沢医科大学, 大阪医科大学 |
| 第103回 | 10 | 東京医科歯科大学, 山口大学, 徳島大学, 宮崎大学, 福島県立医科大学, 横浜市立大学, 埼玉医科大学, 東京医科大学, 金沢医科大学, 大阪医科大学 |
| 第102回 | 7 | 東京医科歯科大学, 山口大学, 宮崎大学, 横浜市立大学, 埼玉医科大学, 北里大学, 金沢医科大学 |
| 第101回 | 9 | 東京大学, 山梨大学, 山口大学, 宮崎大学, 横浜市立大学, 埼玉医科大学, 北里大学, 金沢医科大学, 大阪医科大学 |
| 第100回 | 11 | 弘前大学, 東京大学, 金沢大学, 山梨大学, 鳥根大学, 横浜市立大学(2), 大阪市立大学, 埼玉医科大学, 北里大学, 福岡大学 |

全国医学部長病院長会議

36

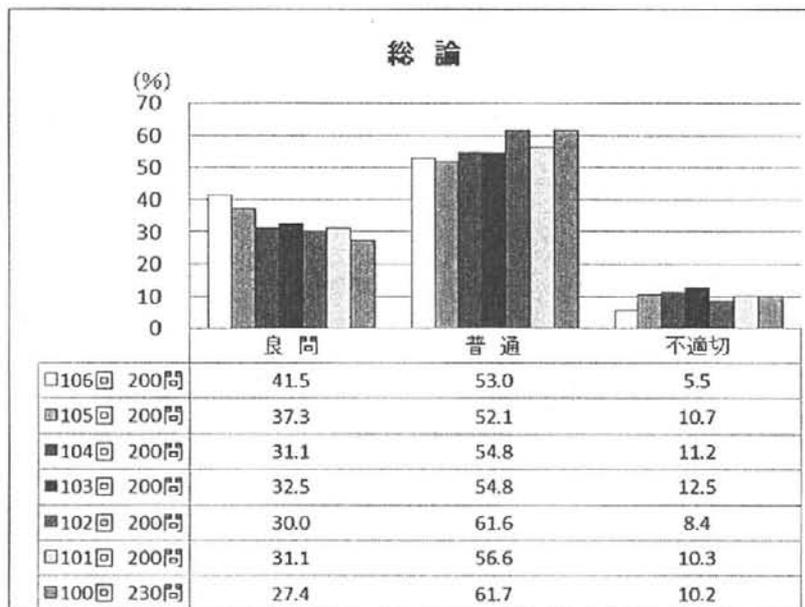
第106回医師国家試験アンケート調査結果 試験問題の評価



全国医学部長病院長会議

37

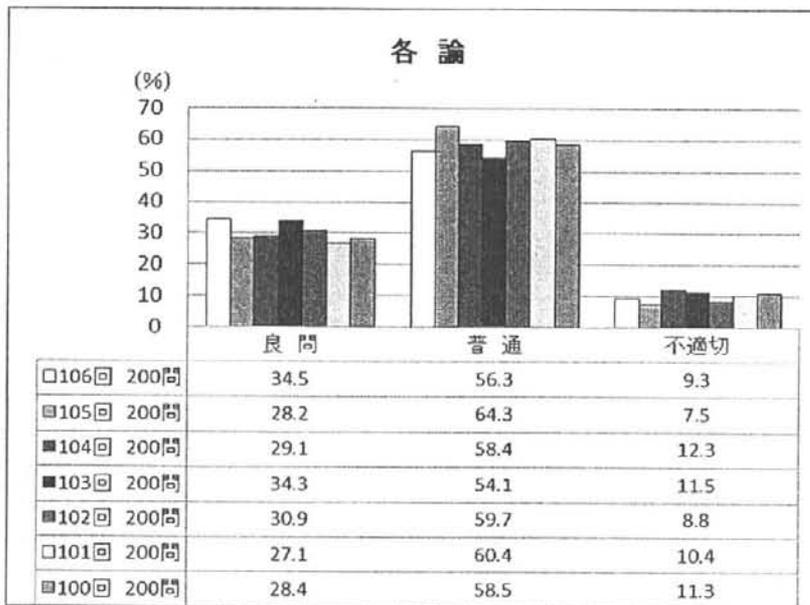
第106回医師国家試験アンケート調査結果 試験問題の評価



全国医学部長病院長会議

38

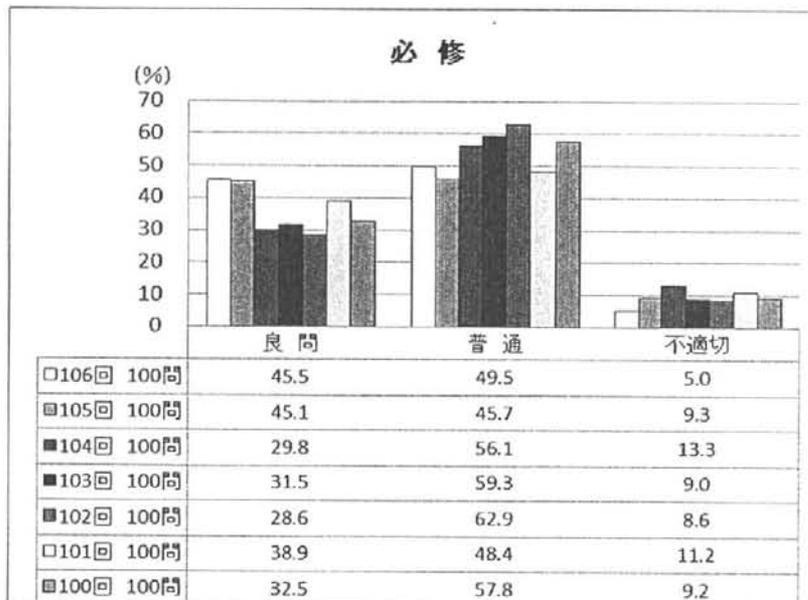
第106回医師国家試験アンケート調査結果 試験問題の評価



全国医学部長病院長会議

39

第106回医師国家試験アンケート調査結果 試験問題の評価



全国医学部長病院長会議

40

平成 24 年 8 月 24 日

民主党文部科学部門会議
座長 鈴木 寛 殿

全国医学部長病院長会議

平成 25 年度予算編成等に関する要望

医科大学・医学部は、教育・研究の実践の場として学生の教育と医師養成を直接行い、併せて高度先進医療を開発・提供し、国民の保健・医療・福祉へ貢献することを使命としております。一方、国民が必要とする医療のニーズは多様で、時代とともに変化しています。このような中で、医療の現場に携わりながら、医学教育、医師養成、そして医学研究を任務とする全国の医科大学・医学部として、平成 25 年度予算編成に際しては、以下の事項について格段のご配慮を賜りたく、要望するものであります。

1. 少子高齢化の急速な進行に伴って大きく変貌する人口構成および疾病構造と、それに伴う医療ニーズの変化に対応するため、倫理観を持った質の高い臨床医を養成するための支援

- (1) 幅広い診療能力を持った総合医を養成するための支援
 - ・大学医学部・附属病院における総合診療科（講座）の設置・充実に対する支援
- (2) 高齢者、認知症患者等に対して、予防医療を含む適切な医療を提供するため、多職種連携・チーム医療を推進し、医療・介護連携を実践できる医師を養成するための支援
 - ・地域連携（地域の医療機関等における学生実習の実施等）を推進するための支援

2. 高度医療を開発・提供する医科大学・医学部の基盤を強化するための支援

- (1) 専門性の高い、倫理観を持った高度医療人を養成するための支援
 - ・一貫性のある卒前および卒後医学教育を推進するためのカリキュラム開発に対する支援
- (2) 革新的な医薬品・医療機器の開発を担う医学研究者を養成するための支援
 - ・基礎医学と臨床医学の連携を強化するための支援
- (3) 研究マインドを育む医学教育を実践するための支援
 - ・基礎医学教育の環境整備、卒前医学教育のカリキュラム開発に対する支援
- (4) 医学部定員増に対応した教員数の確保、設備備品の整備に対する支援
- (5) グローバルに活躍できる医師を養成するための国際交流推進に対する支援
 - ・医学生の国際交流・教員の海外留学、外国人医師の招聘、英語教育の充実、英文論文作成支援のための人材を確保するための支援

3. 大学附属病院の機能を強化するための支援

- (1) 若手医師の帰学率向上と医師派遣機能強化を目指した、魅力ある大学附属病院作り（環境整備）をするための支援
 - ・後期研修医を含め若手医師のキャリア形成の中核として、多くの医師から選ばれるためには、研究、診療活動の一層の活性化が求められる。そのための大学医学部・附属病院への十分な支援
- (2) 大学病院勤務医の負担軽減対策のための支援
- (3) 国民から信頼される良質な医療を提供するための医療安全充実への支援
- (4) 大幅な消費税増税に対応した、患者負担を増やさない消費税の課税制度（0%課税と仕入れに関わる負担消費税の還付）への移行

4. 男女共同参画の推進による医師のワークライフバランスの実現への支援

- (1) 医師の多様なキャリアパスモデルの開発に対する支援
- (2) 女性医師のキャリア維持と向上、および就労継続への支援
 - ・大学附属病院における院内保育所の充実、フレキシブルな勤務制の導入などへの支援

5. 医師の地域偏在の解消と医師不足地域の医師確保への支援

- (1) 地域枠入学者のキャリア形成教育への支援
 - ・地域医療に対するモチベーションを維持・向上させ、地域指向の医療人としてのキャリア形成を促すため、課外学習を含めた卒前・卒後の医学教育のカリキュラム開発に対する支援
- (2) 大学と地域医療機関等によるコンソーシアム事業への支援
 - ・学生に対する地域医療教育、地域の医療機関での実習等の充実、卒業後の地域定着のための行政および地域医療機関等と連携した新たな仕組みを構築するための支援

6. 被災地への医療支援を継続するための支援

全国医学部長病院長会議被災地支援委員会が平成23年4月15日に発足し、被災者健康支援連絡会議の1組織として平成23年9月から24年9月までに71大学・391人の医師を、岩手県、宮城県、福島県の7病院16診療科に派遣した。平成24年1月からは茨城県にも派遣。これらの医療支援を継続するために必要な支援。

全国医学部長病院長会議

第4回 定例記者会見 座席表

平成24年 9月20日(木)17:30～19:00

全国医学部長病院長会議事務局会議室8F

相談役 寺野 彰

○

会長 別所 正美

○

顧問 森山 寛

○

相談役 嘉山 孝正

○

陪席者 山下 英俊
(山形大学 医学部長)

○

記者席

入口